

第6回射水市学校部活動在り方検討会 議事録

1 会議

期 日：令和5年12月14日（木） 15：30～17：15

場 所：射水市役所会議室401

出席者：

（委員） 金谷会長（教育長）、小竹副会長、寺島委員、加藤委員、
櫻野委員、三上委員、金委員、山木委員、浅村委員、朝倉委員、
川腰委員、原委員、古城委員、浦島委員

（事務局） 久々江教育委員会事務局長
六渡事務局次長
星野学校教育課長
酒井副主幹、川渕係長、稲田主査、道上主任（学校教育課）
鳥本課長補佐、荒木主査、岡本主事、
小林スポーツ推進コーディネーター（生涯学習・スポーツ課）
谷口専務理事、京角事務局長、小田事務局員
（（公財）射水市体育協会）

2 概要

- ・開会のあいさつ（教育長）
- ・議事進行（会長）
- ・報告事項

（1）令和5年度実施モデル6競技の活動状況について

（2）モデル6競技の中間報告

（3）令和6年度実施モデル競技・活動等について

【委員からの意見等】

（委員）

バスケットボール競技について、夏の大会までは学校部活動として大会に参加できたが、それ以降の大会は学校部活動として大会に参加せず、地域部活動として参加すると聞いた。また、大会規約には「地域の受け皿となっているクラブ」というのもあると聞いた。地域部活動と「地域の受け皿となっているクラブ」との違いについて伺いたい。

（委員）

市バスケットボール協会関係者としてお答えする。現在、地域部活動として活動しているのは1チーム、地域を拠点に活動するクラブチームは2チームある。クラブチームは地域部活動の受け皿となるクラブとして、自主運営

されており地域部活動とはすみ分けしている。大会に出場する場合は、学校部活動としてではなく、先述したいずれか3チームに所属して出場することになる。

(委員)

学校部活動に参加し、地域部活動に参加していない生徒は大会に参加できないということか。

(委員)

学校部活動には、競技はしたいが大会出場を望まない生徒もいる。

・協議事項

(1) 指導者等の人員確保について

【委員からの意見等】

(事務局)

指導者の確保について、教育委員会、競技団体とも大変苦慮している。そこで一つの案として、①市報等で公募する②コミュニティスクールを活用し、地域から情報を提供してもらうといったことを考えている。生徒にあった指導ができるのか慎重に考えているが、委員の意見をいただきたい。

(委員)

過去には、高校生が中学生、中学生が小学生を指導する体制をとっており、全体を指導者が指導していた。指導者が不足しているのであれば、こういった体制も考えられないか。

(委員)

公募は人材発掘のために良い考えであるが、指導者を派遣する事務調整を教育委員会が行うことは大変だと思う。公募から競技団体へ所属していただく仕組みができればよいと考える。また、コミュニティスクールの活用については、各学校ごとの単位となるので、今後進む少子化のことを考えると心配な面もある。

(委員)

コミュニティスクールはどのように活用するのか。

(事務局)

地域の方で指導者を探し出していただき、教育委員会へ情報提供してもらい、教育委員会がその方へアプローチする。

(委員)

競技経験があり社会人チームに所属する方は意欲のある人と思う。その情報提供してもらうことはできないのか。また、指導はいいが事務的なことは負担と感じる方は多いと思う。

(委員)

吹奏楽は公募よりも経験のある方に指導をお願いするほうが良いと思う。

(委員)

吹奏楽に関する動きはあるのか。

(事務局)

吹奏楽は部員が減少し、コンクールへ単独校での出場が難しい中学校もあることから合同部活動を検討する動きがある。

(委員)

スポーツ少年団の指導者の中には小学生だけではなく中学生も教えたいと考える指導者もいると思う。公募して広く探すことも良いと思う。

(委員)

競技団体に過去所属していた方を通して探すこともできるのではないか。どの分野においても人材不足となっている中において、これまで競技団体の幹部と話を進めてこられたと思うが、範囲を広げて探すことも検討してほしい。

(会長)

これまで競技団体の中だけで指導者を探していたものをコミュニティスクール、公募、OB等探す目を広げていくことが必要である。

(事務局)

バドミントン競技では、総合型地域スポーツクラブが受け皿となっている例がある。

(委員)

すでに総合型地域スポーツクラブのパンフレットには中学生対象の教室を記載しており、中学生の会員も増えている。また来年2月には地域おこし協力隊主催で市内5つの総合型地域スポーツクラブが一堂に集まり、中学生向けの教室体験会を開催することで調整を進めている。世の中の動きに合わせて、我々もできることを進めていく。また、公募は当たり前のことであり毎月行っても良いと思う。

(委員)

これまで中学生は学校部活動があるため総合型地域スポーツクラブでは中学生の会員募集を控えるといった意識があったが、今後は意識を改めていく必要がある。また、地域おこし協力隊と新たな事業を始めるなど、総合型地域スポーツクラブも変わる時が来たと強く感じている。

(委員)

学校部活動にない種目にも総合型地域スポーツクラブに取り組んでいただいており、生徒は多様な選択ができる。

(2) 保護者の費用負担と学校施設について

【委員からの意見等】

(委員)

1年を通して生徒数の増減はあると思うので、保護者の負担は定額のほうがやりやすいと思う。遠征に行く場合は、改めて徴収するのがいいと思う。

(委員)

バスケットボールだけ男女わかれているため、負担金額の違いを説明しにくいのではないかと。

(委員)

持続可能な活動とするためにも、ある程度の指導者への報酬は必要である。

(委員)

競技ごとに負担金額が異なるのはなぜか。

(事務局)

会場使用料や指導者数など異なるからである。

(委員)

スポーツをはじめ学習での月謝など、様々な面でお金がかかる。学校施設を活用するなど、なるべくお金のかからないようにしていただきたい。

(委員)

毎月集金の場合、全く行かない月は支払わなくていいといったことはできないのか。

(事務局)

国の補助を活用してモデル事業を行っており、その動向も不明な状況で模索している段階である。

(会長)

学校を地域部活動に開放することについて、各学校長の意見を伺いたい。

(委員)

学校の体育施設は申請があれば許可している。体育館にはスマートロックが設置されており鍵管理も負担ではない。

(委員)

中学校体育館を利用することは問題ないが、文化部へ教室等を貸し出すことはセキュリティ上難しい。

(委員)

小学校も安全管理上、教室等を貸し出すことは難しいが、小学校によっては棟が別になっておれば可能性はあるかもしれない。

(委員)

中学校体育館は問題ないが、教室等を貸し出すことは難しい。

(委員)

学校の負担になってはいけない。コミュニティスクールの導入により、地域

の方に鍵管理を頼むことはできないのか。

(事務局)

先進地視察に行ったところでは、地域の方が鍵管理しているケースもあった。

・その他

今後のスケジュールや次回の会議予定等について説明。

(委員)

所属する学校の学校部活動にはない種目の地域部活動に参加したいといった声も聞いている。いつから所属学校にない種目の地域部活動への参加が可能になるか。

(事務局)

現在はモデル事業であり、大会への登録など課題を整理する時間をいただきたい。また、ニーズがあるか検討していきたい。

(委員)

来年度の地域部活動について、詳細が決まるのは、いつ頃か。

(事務局)

新入生の説明会には間に合わないが、新入生の部活動加入時期までには決定する予定である。